

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

2月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

2月の報告数は3,284件（前月比0.2, 前年同月比0.3）でした。流行は1月にピークに達しましたが、2月に急速に落ち着きました。これは過去2シーズンと比べても1ヶ月早い終息です。今後B型の流行に注意が必要です。県全体の定点あたり報告数は41.1で、菊池（59.1）、有明（57.0）、宇城（55.5）から多く報告されました。

小児科定点

（全体傾向）

2月の報告数は6,025件（前月比0.29, 前年同月比0.41）でした。この減少は主にインフルエンザと感染性胃腸炎の患者数減少によるものです。一方でRSウイルス感染症、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナが前月より増加しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数は166件（前月比1.2, 前年同月比1.9）で、1月に続いて増加し、過去2シーズンと比べてもやや多くなりました。県全体の定点あたり報告数は3.3で、菊池（18.8）で多くなっています。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は91件（前月比0.7, 前年同月比0.7）でした。11月から1月にかけて患者が増えていましたが、2月は減少に転じました。例年同様であれば春季は患者数が落ち着く見込みです。年齢別では1～2歳で全体の3分の2（62/91）を占めました。県全体の定点あたり報告数は1.8で、菊池（5.4）、水俣（3.0）地域から多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は522件（前月比1.2, 前年同月比2.0）で、2月は増加しました。推移は過去2シーズンと同様ですが、今シーズンは過去2シーズンよりも患者数が増加しています。3～6歳が全体の5割強（296/522）を占めました。県全体あたりの報告数は10.4で、宇城（26.0）、有明（13.8）、菊池（13.8）、八代（11.5）、熊本（10.8）地域から多く報告されました。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は1,421件（前月比0.7, 前年同月比1.0）で、2ヶ月連続して減少しました。冬季の流行はピークを過ぎたようです。1～6歳（734/1421）が全体の半数を占めました。県全体あたりの報告数は28.4で、有明（59.8）、山鹿（58.5）、八代（44.8）、菊池（44.6）から多数報告されました。
5. 水痘 : 報告数は56件（前月比0.6, 前年同月比1.8）で、2ヶ月連続して減少しましたが、前年よりも高い水準です。7歳をピークに、4歳以上で全体の7割（39/56）、7歳以上で全体の4割（22/56）を占めています。県全体あたりの報告数は1.1でした。
6. 手足口病 : 報告数は76件（前月比1.5, 前年同月比1.9）で、1月よりやや増加しました。1～2歳で全体の8割強（65/76）を占めました。県全体あたりの報告数は1.5で、菊池（4.2）で多く報告されました。
7. 伝染性紅斑 : 報告数は42件（前月比1.1, 前年同月比10.5）で前月並みですが、県内では2015～16年の流行以来3年ぶりの高水準であり、今後の推移に注意が必要です。年齢別では5歳をピークに、4～6歳で全体の6割（25/42）を占めます。県全体あたりの報告数は0.8で、有明（3.0）で高くなっています。
8. 突発性発疹 : 報告数は115件（前月比0.8, 前年同月比0.9）で、前年並みの水準です。県全体

あたりの報告数は2.3で、菊池地域（5.6）で多く報告されました。

9. ヘルパンギーナ : 報告数は24件（前月比4.0, 前年同月比1.3）で、1月よりやや増加しました。2歳以下が全体の6割（15/24）を占めました。県全体あたりの報告数は0.5で、天草保健所管内（2.5）から多く報告されました。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数は22件（前月比0.7, 前年同月比1.3）で、1月より減少しました。4～5歳で全体の半数（11/22）を占めました。県全体あたりの報告数は0.4で、山鹿（3.0）から多く報告されました。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 82 件(前月比 1.0、前年同月 1.7)と前年よりも若干増加しています。熊本 70 件、菊池 6 件、有明 6 件の報告です。年齢別では 20～49 歳にピークがありますが、乳幼児、高齢層にもやや多く発症しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数53件（前月比1.0、前年比 1.0）で、前月比、前年比ともに同数でした。男女別は、男性29件、女性24件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は20～54歳に見られ、女性は15～39歳に見られます。地域別は、熊本が37件、次いで御船、有明各5件、次いで宇城4件、八代、人吉各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数24件（前月比0.7、前年比 0.8）で前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性11件、女性13件で、女性に多くみられます。年齢別は、男性は20～54歳に見られ、女性は20～70歳以上で幅広い年齢に多く見られます。地域別は、熊本14件、次いで八代6件、宇城2件、菊池、御船各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数4件（前月比0.8、前年比0.5）で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性3件、女性1件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は30～39歳に見られ、女性は50～54歳に見られます。地域別は熊本3件、次いで菊池1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数13件（前月比0.7、前年比 1.2）で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性11件、女性2件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は20～49歳に見られ、女性は25～49歳に見られます。地域別は、全例熊本でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は14件（前月比 : 0.7、前年同月比 : 0.5、男女比 : 11/3）で減少傾向にあります。熊本地区(6)、水俣・天草地区(2)、阿蘇・八代・人吉・有明地区(1)と広範囲に認めます。年齢分布としては25-29歳(1)、40-44歳(1)、65-69歳(1)、70歳以上(11)と高齢者で集中して多く検出されました。
▼例年より少なめの報告数で推移しています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は4件（前月比：1.0、前年同月比：1.3、男女比：2/2）で横方向に推移しています。
熊本・有明地区(2)でした。年齢分布としては1-4歳(3)、70歳以上(1)でした。
▼例年同様に推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-）で報告はありませんでした。
▼引き続きH30年4月(1)以降、報告はありません。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼例年より少なめに推移していますが、例年の傾向から3月以降の推移に留意が必要です。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は1件（前月比：0.5、前年同月比：-）で減少しています。熊本地区(1)でした。年齢分布は25-29歳(1)でした。
▼例年同様に推移しています。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で減少、報告はありませんでした。
▼前回より急激な減少となっています。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼引き続き報告はありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は11件（前月比：3.7、前年同月比：2.2）で急激な増加に転じています。
熊本地区(11)で、年齢分布としては0歳(1)、1-4歳(8)、5-9歳(2)でした。
▼例年より急激な増加経過となっており、今後の動向に注意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	：ありませんでした。	
2類感染症	：結核	13件
3類感染症	：ありませんでした。	
4類感染症	：レジオネラ症	2件
5類感染症	：アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
	水痘（入院例）	1件
	梅毒	7件
	百日咳	27件
	麻疹	1件